

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	校内研究と連携し、授業において、めあての提示、振り返りの時間の設定を全学年・学級で統一することで系統的な指導を行い、各学年の発達段階に応じた主体的に学ぶ力を高める。 ICT 機器を効果的に活用して個別最適な学びを推進し、基礎・基本の定着を図る。	中間評価		最終評価	
		愛日スタンダード等を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導を徹底する。hyper-QU の活用等による児童理解をすすめる。自己決定の場の確保、自己肯定感をもたせる場作りなどの人間関係づくりの視点で学習環境を整えていく。 また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行う。				
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 平仮名や片仮名に加えて、漢字の習得も反復練習を取り入れたことで定着してきている。しかし、筆順に気を付けたり、字形を整えて書いたりすること、文章で漢字を使うことについては、指導が必要である。</p> <p>学 話を聞く際、集中して聞けなかったり、手遊びをしまったりする姿が多く見られる。大切なことを落とさないで聞くことができる児童が少ない。</p> <p>学 自分の意見や感想、友達のいいところなどを発表する時など、話し方は身に付いてきている。その場に応じた声の大きさを話すことについては、十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での反復練習の際も、正しい書き順で字形を整えることを意識して書くように指導する必要がある。 大切なことを落とさないで聞いたり、話したりするためには、どんなことが必要なのか考え、定着させる必要がある。 ペアで、グループで、全員の前で話す時に、ちょうどよい声の大きさを意識して、話すよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字練習を毎日行ったり、漢字テストで定着を確認したりする。タブレット端末での漢字練習も積極的に取り入れ、繰り返し練習する時間を設ける。 話を聞く時に、手遊びをしないで話し手の顔を見て話を聞くこと、途中で口を開かないで終わってから質問することなどを徹底して指導する。全校朝会での校長講話、朝のスピーチなど大切なことを落とさないように聞いているか定期的に確認する。授業中に友達の意見をもう一度発表させ、友達の意見もしっかりと聞く意識を高める。 ちょうどよい声の大きさを実感できる機会を計画的に取り入れ、その場に応じた声の大きさを話ができている児童をお手本として取り上げ、全員での共通理解を深める。 		
	算数	<p>学 計算については、正確に答えを求められるようになってきている。しかし、繰り返し上がり、繰り返し下がりのある計算では誤答が多くなる。答えを求めるまでの速さについては個人差がとても大きい。</p> <p>学 文章題では、問題の意味を理解した上で、図、言葉、式などを用いて答えを求める活動に計画的に取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しく答えを求められるように繰り返し練習問題に取り組む必要がある。同時に、個々の計算力に合わせて、課題の質量を変えて取り組ませる指導も必要である。 学習課題を把握し、既習事項を活かして解決する場面において、図、表、式などを用いて説明できるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題に繰り返し取り組ませるだけでなく、問題の難易度や量など、児童の定着度に合わせて取り組ませるよう教材を工夫する。個に応じて、タブレット端末も積極的に活用する。 図、表、言葉、式など様々な方法で自分の考えをまとめたり、説明したりするような学習活動を計画的に取り入れる。カメラ、オクリンクなどタブレット端末の利点を有効に活用する。 		

3	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、領域「書くこと」の正答率は、他の領域と比べると低い結果となっていた。</p> <p>学 新出漢字の練習はタブレット端末とノートでの練習のバランスを考えて指導を続けてきたことで、正しい字形を意識して書くことができた。しかし、筆順を意識して書くことは今後の課題である。</p> <p>学 話を聞く際に、大事なことは何だったか児童に確認したり、要点をメモにまとめさせたりしてきたことで、大事なことを落とさずに話を聞けるようになってきたが、まだ十分とは言えない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを順序立てて書けるよう指導する必要がある。 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、文章を書く力を伸ばす必要がある。 自分の思いや考えが明確になるような文章を書く力を伸ばす必要がある。 指定された文字数で自分の思いや考えを明確にして書けるようにする必要がある。 新出漢字の学習では正しい字形・筆順を意識して書けるようにする。 話を聞くときは話し手の話に関心をもって聞き、質問する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート・ノートにまとめた内容、振り返り（学習感想）など書く活動を習慣化していくようにする。 限られた文字数や決められたテーマ文章を書く取り組みを定期的に行う。 「まず～」「つぎに～」「そして～」などの順番を表す言葉を使って文章を書かせることで、順序立てた文章を書く力を付けていく。 漢字の学習は漢字のドリルやタブレット端末を活用していく。 話を聞くときは、話す人の方を見て聞いたり、大事だと思ったことをメモしたりするようにする。また、質問するときは知りたいことを整理してからするようにする。 	
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、2桁、3桁の計算におけるミスが見られた。</p> <p>学 学習課題を解決する際には、図や表などを使用して説明する場面に授業に多く取り入れたり、タブレット端末を使用して全体で検討したりすることによって表現できる児童が増えた。</p> <p>学 計算処理については、正しく計算することよりも、速く計算することを目標としている児童が多く、間違えずに計算できる児童は多くない。</p> <p>学 文章問題や応用問題になると理解に時間がかかり、個別指導を必要とする児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「速く計算する」というよりも「正しく計算する」を意識して、計算問題に取り組む必要がある。 式を立てる際に、自分が行っている計算や具体物操作が文章題の中でどのような意味をもつか考えながら、問題に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題を解くときには、計算の過程が明確になるように、ノートに途中式を書くようにする。 計算の確かめの仕方を指導し、解答を見直す習慣を身につかせる。 授業で文章問題を解く時には、問題文にラインを引き、それを基にして言葉の式を立て、計算式を立てることを指導し、積み重ねる。 個別に指導が必要な児童には絵や図などを用いて段階的に指導を行う。 家庭との連携を密にし、目盛りや単位問題において習熟を図る。 	
4	国語	<p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、領域「書くこと」の正答率が、他の領域と比べると低い結果となっていた。「話すこと聞くこと」で、自分の考えが相手に伝わるように理由をあげながら話すことや、「読むこと」で、叙述を基に文章の内容を捉えることも十分とはいえない結果となっていた。</p> <p>学 話を聞く際に、自分と同じ考えに対しては、共感しながら聴くことができる。一方で、話し手を見て聞けなかったり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。最後まで集中して話を聞くことができる児童が少ない。</p> <p>学 文章を書く際に、文字の誤記や書き飛ばし、意図が伝わらない文章が見られており、文章表記の定着が十分とは言えない。</p> <p>学 文章を読む際に、自分の想像を基に読解をしており、叙述を根拠にできていない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く際に、相手を見て聞くこと、手遊びをせずに聞くことを指導し、最後まで集中して話を聞くには、どうすればよいのかを考えさせ、定着させる必要がある。 自分が書いた文章を読み直す習慣がつくよう指導する必要がある。 文章を読む際に、叙述に即して読むことを指導する。これを繰り返し指導することで定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く時に、話し手を見て、手遊びをしないで聞くこと、最後まで聞いてから自分の考えを口に出すこと等を徹底して指導する。友達の意見を改めてまとめさせることで、集中して聞く意識を高める。全校朝会の校長講話の要点を毎回確認することで、最後まで集中して話を聞く練習とする。 学習内容を振り返る際に、自分の書いた文章を必ず読み返すよう指導し、自分の意図が伝わっているか、誤記や書き飛ばしがないか確認する習慣をつける。 物語文や説明文の学習の際に、自分の考えの根拠とする部分に線を引かせたり、書き抜かせたりすることを繰り返し、叙述に即して読む経験を積む。また、叙述のどこを根拠にして自分の考えをもったのかについて話し合う機会を増やす。 	
	算数	<p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。その中で、文章問題を読み解くことや式や考え方を説明することは正答率が低く、課題が見られている。</p> <p>学 計算については、正確性よりも速さを重視している児童が多く、筆算の際に繰り上がり、繰り下がりのある計算でミスをする児童が多い。かけ算九九の定着が十分ではない児童もいる。そのため、基礎基本の問題でも単純なミスをする児童が多い。</p> <p>学 文章問題や、応用問題になると理解に時間がかかったり、個別指導を必要としたりする児童も多い。自分の考えを文章や式で表すことにも課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「速く解く」ことではなく、「正確に解く」ことを意識して計算問題に取り組ませる必要がある。 立式の仕方を説明したり、文章問題の場面を具体化したり、自分がどのように考えて解いているのかを他者にも理解できるように表現することを繰り返し指導し、定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違えた問題を解き直す際に、どこが間違っていたのかを明確にして訂正することを習慣づける。計算ミスがなくなるよう見直しをすること、0や6などの数字を丁寧に書くことを徹底する。計算の途中式を書くことを習慣づけ、思考の過程が見える化してミスがなくなるようにする。 文章問題や応用問題などは、問題文にラインを引いて言葉の式を立ててから計算式を立てるよう指導する。また、自分の考え方を他者に説明する場面を意図的に作り、説明する学習活動を計画的に取り入れる。 	

5	国語	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では、領域「書くこと」の正答率が、他の領域と比べると低い結果となった。「話すこと聞くこと」の「話し手が伝えたいこと」の中心を捉えて聞く」や、「言語事項」の「主語と述語」、「気持ちを表す語句」の理解についての設問で誤答が多かった。「漢字の読み書き」の項目では、正答率を大きく上回った。</p> <p>学 読書を好む児童は多いが、登場人物の気持ちの読み取りとなると、叙述を基に正確に読み取れている児童は多くはない。</p> <p>学 1分間スピーチの様子を見ると、話し手の意図とは関係なく、聞き手の興味本位の質問が多く見られ、話し手の意図をくみ取ったり、話の中心を捉えて聞いたりすることができない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 限られた文字数や決められたテーマに基づき、考えを順序立てて書くことができるように指導する必要がある。 文章を正確に読み取る道標になるように、主語、述語などの言葉の学習も定期的に行い、習熟を図る必要がある。 文章を読む際に、叙述を基に登場人物の気持ちを具体的に想像できるようにすることや段落の内容を捉えることができるように指導する必要がある。 話し手の意図をくみ取ったり、自分の考えと比べながら聞いたりするなど、相手意識をもたせた話の聞き方ができるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回、朝学習の時間を活用してミニ作文を書く時間を設定し、限られた文字数や決められたテーマに即して記述できるよう継続して行う。 朝学習の時間を活用して、簡単なワークプリントに継続して取り組む。その際、主語、述語、修飾語等を確認することで、文の構造に着目させ、文章読解の際にも生かせるようにする。 物語文や説明文の学習の際に、どの叙述を基に考えたのか、教科書に線を引いたり、ノートに書き出したりさせることで叙述を意識した読み取りができるようにする。また、段落ごとにタイトルを付けさせるなどして、話の内容の中心を常に意識して読めるようにする。 朝のスピーチでは、スピーチ後に話し手の一番伝えたかったことが聞き取れたか、話し手と聞き手で照合する時間を設ける。質問の際には、話の意図を汲んで質問をしている児童を価値付けし、話の中心を捉えて話を聞く意識が身に付くようにする。 		
	算数	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では、ほぼすべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 基本的な知識をもっている児童は多いが、その知識を活用する方法を身に付けていないためか、解き方の見通しがもてなかったり、答えまでのプロセスを説明できなかったりする児童が目立つ。</p> <p>学 四則計算は十分身に付いている。しかし、筆算はできるが、筆算の数の意味までは理解できていなかったり、計算のきまりを使って工夫して解くことができなかったりする点に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでどのような学習をしてきたか、既習事項を確認し、既習事項を基に新たな問題を解決していくことを意識させる。そして、自らの意思で知識を活用することができるようにしていく必要がある。 数にどのような意味があるのか、公式はどのように成り立っているかなど、答えではなく、考え方に着目して思考力・判断力・表現力が身に付くよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、課題に対してどのような方法で解くか見通しをもたせる中で、既習事項を確認し、自分のもっているどの知識が活用できるか確認する。そのようにすることで、課題解決までのプロセスが身に付くようにする。 式を読む活動や友達の考えを説明する活動を多く取り入れ、考えを深めたり広げたりできるようにする。 		
6	国語	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では、「言語文化に関する事項」「書くこと」についての領域が低かった。</p> <p>学 ノートや宿題の様子から、漢字を書いたり読んだりすることは、おおむねできているが、機械的な暗記となり意味や使い方の理解が不足している。そのため、作文などの際、既習の漢字の活用ができていない。</p> <p>学 作文などの文章を書くことは、得意不得意の差が大きい。自分の意見や気持ちまでは書けているが、理由が書けないなど、短文になってしまう児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書くことへの抵抗感がある児童の抵抗感をなくしていく必要がある。 テーマに沿った自分の考えを明確に、文章の構成を考える力がまだ十分でないため、指導する必要がある。 既習の漢字を活用する力が十分でないため、指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習で自分の考えを書く時間を設ける。自分の考えを簡潔に書くことから抵抗感を減らしていけるようにする。 朝読書の時間や隙間時間を活用して、読書から語彙を増やし、文章構成に触れさせる。 新出漢字の学習の際は、読み書きにとどまらず、部首や意味、使い方も確認していく。 		
	算数	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では、ほぼすべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 基本的な知識は身に付いている。昨年度同様に、正答すれば十分と考えている児童がまだいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を正確に読み取り、解答していく力は十分とは言えないため、指導する必要がある。 知識としての公式は身に付いているが、一つの考え方に固執してしまう児童がいるため、指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間内に丁寧に問題を解くことや、自分の解答を見直すことの重要性について指導していく。 自分の考えを説明する時間を設け、多様な考えで問題の解決をするよさを感じられるよう、指導していく。 		
音楽	<p>学 器楽や鑑賞に興味をもち、進んで演奏に取り組んだり、集中して鑑賞したりすることができている。表現活動には2年前から制限がかかっているため、歌唱や器楽（リコーダー）では主体的に思いや意図をもって表現する技能が十分ではない部分がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 難易度の高い課題に取り組むとき、一部の児童に苦手意識から諦めてしまう場面が見られるため、指導する必要がある。 音楽表現の工夫に至るまでの技能が追い付かず、難しさを感じている児童がいるため、指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた指導はもとより、身につけていない技能面は、その都度振り返りや確認をしていく。 友達の考えやよさを知る場面を増やすため、ペア学習やタブレット端末などを利用していく。 			

図工	<p>学 道具の扱い方を生かして表現活動に取り組む意識が高まってきている。鑑賞では、自信をもって発表する児童とそうでない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品から良さを積極的に見つけられるが、自分で考えて表現することに自信のない児童がいるため、指導する必要がある。 ・楽しく取り組んで作品を完成させることができるが、鑑賞において堂々と発表できない児童がいるため、指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の段階に応じて、一つの道具でも様々な扱いがあることを丁寧に伝えて表現の楽しさを感じられるようにする。 ・鑑賞の場面では、意識して取り組んでいたことを振り返った上で作品の良さを伝えられるようにしていく。 		
特支	<p>学 算数の計算に関して、過去に学習した内容の定着度に差がある。また、文章題など、問われていることをイメージして立式することに課題がある児童が多い。</p> <p>学 コミュニケーションに課題がある。話し合い活動や、聞く活動で相手を意識した行動が難しい児童が多い。自信がなく、消極的になってしまう児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えることが苦手で、学習してから時間がたつと忘れてしまう児童がいるため、指導を工夫する必要がある。 ・問われていることを図や表に整理したり、具体物で操作したりすることを面倒がる児童がいる。 ・自分の伝え方に対して、相手がどのように思うかを分かるが、自分の行動の改善ができない児童が多い。分かっているけれどできないことにどう折り合いをつけていくかが課題であるため、指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で過去に学習したことを振り返る機会をこまめに作り、学習方法を確認する。また、宿題でも復習問題を用意し、学習する内容を振り返る機会を多く設ける。 ・図や表を作成する手順を減らし、児童の負担感を減らす。整理することによって、問題を理解しやすくなることを実感させ、児童の意欲向上を目指す。 ・児童が自分の行動を客観的にとらえることができるよう、SSTや日常的に声をかけていく。理解を深めるために、相手がどのように思ったかを考えさせる声掛けも行っていく。 		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。